

社屋にコートを設置、競技用アプリの開発 ボッチャへの独自の普及活動の実施

ITサービスやヘルスケアサービスを展開する株式会社CAC Holdings。同社は日本ボッチャ協会のゴールドパートナーとして協会の活動の支援を行いながら、ボッチャボール間の距離を測るアプリの開発や、社屋にボッチャ専用のコートを設置するなど、独自の普及活動を展開しています。



株式会社CAC Holdings



企業情報

株式会社CAC Holdings

【担当部署】経営企画部 Enterprise Value Up グループ

【住所】東京都中央区日本橋箱崎町24-1

【電話】03-6667-8010

【URL】<https://www.cac-holdings.com>



創業50周年を機にボッチャの支援を開始

同社がボッチャの普及・支援活動を始めたきっかけについて、説明するのは、経営企画部 Enterprise Value Up グループ長 兼 CACグループ ボッチャ支援事務局長の酒井伊織氏です。



酒井事務局長

「当社では以前からパラスポーツの支援を行っていましたが、スポンサーとして出資をしていただけで、具体的な活動は何もしていませんでした。」(酒井事務局長)
そんな同社は、創業50周年を機に、社会貢献につながる事業を展開していきたいという経営陣の想いからボッチャ

の支援をスタートしました。

「支援をはじめた2016年にボッチャの日本チームの活躍でボッチャの知名度が一気に広がったんです。外部からの反響もよくて、うまく波にのることができました。」と語るのは株式会社シーエーシーの経営統括本部経営企画部広報グループの近藤奈都子氏。



近藤氏

その後、競技大会に運営ボランティアとして参加するなど、現場での活動を重ね、その経験を形にしていきました。近年では、日本ボッチャ協会のゴールドパートナーとして、ボッチャ大会の主催、パラアスリートの雇用、普及啓発活動のほか、ボッチャボール間の距離を自動測定するアプリ「ボッチャメジャー」の開発や社屋に「CACボッチャコー

ト」を設けるなど特徴的な取組を実施しています。

社員研修にボッチャを採り入れて 認知拡大

企業としてパラスポーツの支援活動を推進するうえで、社員を巻き込んでいくことも重要です。

「当社では新人研修プログラムにボッチャの体験会を組み込むなど、社内のイベントで定期的にボッチャを導入しています。グループ社員であれば、ボッチャのルールは知っているでしょう。」と語るのは、経営企画部 Enterprise Value Upグループ 兼 ボッチャ支援事務局の稲垣義則氏。



稲垣氏

関心を持ってもらうためには、まず何よりも実際に体験することが重要と考え、当初はボランティアの時間を業務時間として扱いました。そうして、社員一人ひとりが、ボッチャとの接点を増やしていきました。

社員の心境にも変化が見られ、パラスポーツを身近に感じ、障がい者との関わり方への興味・関心を持つ社員も増えてきています。



リモートでの体験会の様子

まずは「体験してみる」から始める

パラスポーツの振興を企業として行うなら、「まずやって

みる」が重要だと、皆さんは口を揃えて言います。「パラスポーツだからと身構えるのではなく、まずは『一緒にやってみる』が大事です。ほとんどゼロの状態から始めて、今ではボッチャの審判員の資格を持っている社員もいます。」(稲垣氏)

近年、ボッチャの知名度は高まっており、体験するチャンスは確実に増えています。まずは実際に体験してみて、その魅力に触れることから、次のステップに進むのが近道なのでしょう。

今後もボッチャを軸に、さまざまな活動を展開

「さまざまなスポーツの支援ができれば理想なのですが、ボッチャにはまだまだ深く関われる余地があります。当面はボッチャ支援に注力していきます。」(酒井事務局長)
同社はこれまで、学生交流戦「CACカップ」を主催したり、小中学校や企業に向けて、ボッチャの体験プログラムを提供するなどボッチャの裾野を広げる活動を実施してきました。これからも新しい生活様式に合わせた普及啓発活動を推進していきます。

根強い取り組みを続け「CACといえばボッチャ」というくらいまで知名度を上げた同社の事例は、多くのパラスポーツ支援を検討する企業にとって参考になるでしょう。



CACカップの様子

今後の取組について

ボッチャは性別、年齢、国籍、障がいの有無等を問わず、誰もが一緒になってすぐに楽しむことができる競技です。ダイバーシティやインクルージョンの必要性がますます高まるこれからの時代にふさわしいスポーツであり、これからも普及活動に取り組んでいきたいと思っています。